

第 33 回国際化学生態学/第 9 回アジア太平洋化学生態学合同会議を振り返って

京都大学農学研究科応用生命科学専攻・教授
研究会担当責任者（事務局長） 森 直樹

2017 年 8 月 23 日（水）～ 27 日（日）に京都市・龍谷大学深草キャンパス和顔館において、第 33 回国際化学生態学/第 9 回アジア太平洋化学生態学合同会議が開催された。日本で国際化学生態学会議が開催されるのは 1992 年の京都大会以来の 25 年振りである。夏の京都という暑い中にも拘らず、32 カ国から 376 名の研究者が京都で一堂に会した。日本人の参加者は 130 名、海外からの参加者は 246 名であった。日本以外で多かったのは、中国、アメリカ、ドイツであった。

大会としては、国際化学生態学会から恒例の ISCE Silver Medal Award、ISCE Silverstein-Simeon Award、ISCE-Early Career Award の受賞講演、アジア太平洋化学生態学会から APACE Lifetime Achievement Award の受賞講演、4 件のプレナリー講演（James H. Tumlinson 教授、Wilhelm Boland 教授、Hiroshi Kudoh 教授、Yongping Huang 教授）のほか、15 のセッションが生まれ、最新の成果が紹介された。セッションのタイトルを以下に示す。各セッションで最新の研究成果が発表され、活発な議論がなされた。

Plant-animal interactions、Microbial chemical ecology、Plant perception and response、Pheromone communication、Aquatic chemical ecology、Multitrophic interactions、Semiochemicals in social interactions、Chemical ecology of forest ecosystem、Plant-plant communication、General chemical ecology、Chemical ecology of invasive species、Ecological omics: genome to the field、Plants, microorganisms: next generation insecticides、Utilization of semiochemicals in pest management

ポスター発表会場でも活発な討論がなされ、日本の学生にとっても良い経験になったと思われる。これを良い機会として、世界に目を向けて欲しいと思う。また、森謙治先生（東京大学名誉教授、日本学士院会員）が長年にわたって合成化学の観点から世界の化学生態学の発展に多大な貢献をされたことに対して、国際化学生態学会から“Life Time Honorary Membership”を受賞された。我々にとっても大きな喜びであった。

このように本大会が成功裏に終了できたのは、報農会、内藤科学財団、日本農薬学会はじめ多くの民間企業から多大なご支援を頂いたお陰である。この場を借りて、ご支援頂いた報農会に厚く御礼を申し上げます。

